

豊郷町隣保館だより

2018年12月21日発行 豊郷町隣保館 ☎0749-35-0611 第177号



住民も協力して崩壊家屋
からの救出が行われた

・発生時の時刻で止まり、校庭の花壇に落下した大時計

『あの日、あのときを忘れない…』
〜阪神淡路大震災から8740日〜
1995年1月17日、午前5時46分、阪神淡路大震災が発生。戦後初の大都市直下型地震は、関連死を含め6434人の命を奪い、住まいや仕事など暮らしの土台を根本から崩壊させました。あの日から、12月22日で8740日がたち、来年で24年目となります。
阪神・淡路大震災で幼い弟2人を亡くした柴田大輔さん（30歳）は、神戸市長田区在住。12月17日、神戸市長田区の小学校で、全校児童約270人を前に当時の体験を語りました。彼は、6歳のとき、たった1人で避難し、何も食べられず、焼け跡では弟の遺骨を目にしたといます。いろんな人に助けってもらってここまで来た。みんなも人と人のつながりを大事にしてほしい」と切実な想いを伝えてくれました。
柴田さんは震災で自宅が倒壊。小学1年生だった自身と両親は救出されましたが、弟の宏亮ちゃん（当時3）と知幸ちゃん（1）は、火災の犠牲になりました。2016年に震災の経験を伝えるグループ「語り部KOBEL1995」の一員となり、各地で活動を重ねておられます。24年を迎える今、震災を知らない世代が多くなりましたが、私たちひとり一人も『あの日、あの時を忘れない』の想いをもち続けていくことはとても大切なことだと思います。何気ない一日こそ、大切に過ごしていきたいですね。